

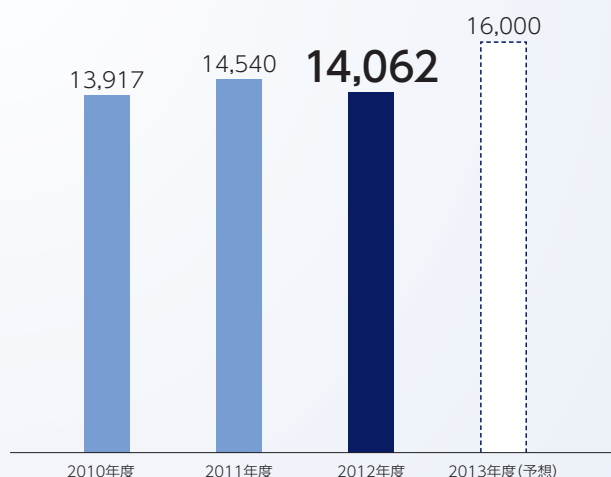
グラフで見る三井化学

はじめに

当社事業の現状につきましては、招集ご通知の添付書類である「事業報告」に詳細に記載しておりますが、株主の皆様により分かりやすく当社の現状を知っていただくため、本状を同封いたしましたので、ご高覧いただければ幸いです。

売上高

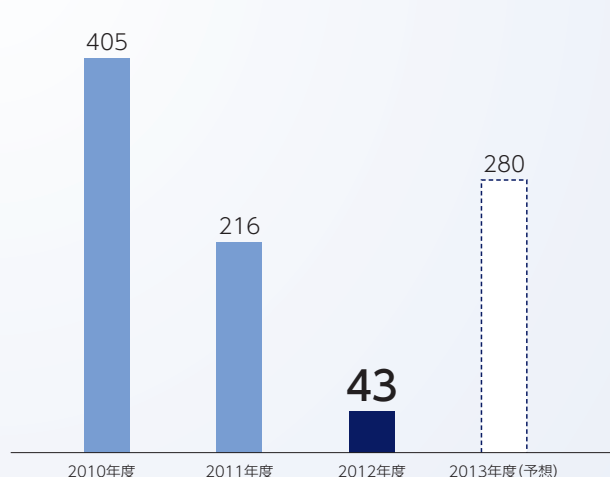
(単位:億円)



主に基礎化学品事業における岩国大竹工場事故などによる販売数量の減少や、同じく基礎化学品事業における市況下落などの影響により、前期に比べ478億円減の14,062億円となりました。

営業利益

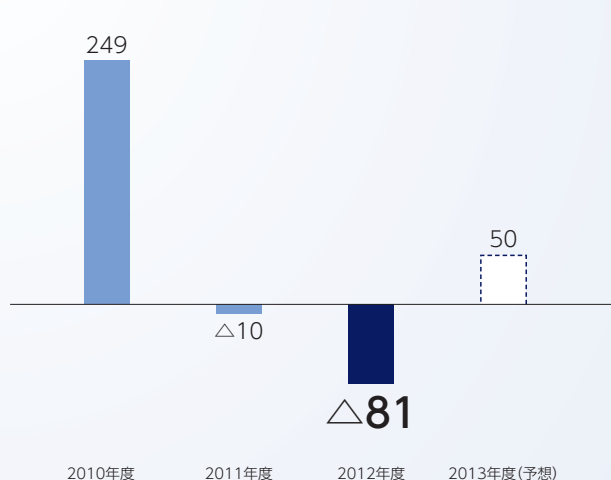
(単位:億円)



主に基礎化学品事業における岩国大竹工場事故などによる販売数量の減少と石化事業や基礎化学品事業における取引条件の悪化などの影響により、前期に比べ173億円減の43億円となりました。

当期純損益

(単位:億円)



岩国大竹工場事故による損失や、事業の再構築に係る費用を計上したことなどの影響により、前期に比べ71億円減の81億円の損失となりました。

収益回復のスピードアップに向けて - 2013年度の取り組み -

2011年度中期経営計画の最終年である2013年度は、同計画で掲げる事業ポートフォリオの変革や低収益事業の構造改革をはじめ、あらゆる対策を講じて収益回復のスピードアップを図ってまいります。

2012年度は世界景気の低迷や当社岩国大竹工場における事故の影響などにより厳しい業績となりましたが、このような状況下においても、当社が事業ポートフォリオの変革のために注力してきたヘルスケアや農業化学品を含む機能化学品事業、エラストマーなどの機能樹脂事業は順調に利益を伸ばしており、2013年度には、営業利益で2010年度の1.5倍にまで達すると見込んでいます。また、2011年度には大きな赤字を計上していたウレタン事業につきましては、抜本的構造改革を断行してきた結果、徐々に損益が改善してきており、2013年度には70億円の黒字となる見込みです。

収益悪化の大型事業については、高純度テレフタル酸(PTA)及びフェノールの抜本的構造改革や京葉エチレン(株)から離脱後のエチレンセンターのさらなる再構築に全力をあげて取り組んでまいります。

強みを活かして、新たな成長軌道へ ～事業ポートフォリオの変革に向けて～

三井化学グループでは、2011年度中期経営計画にのっとり、グローバルでさまざまな施策を行っています。2013年度後半からいよいよ、これらの施策が実り、収益拡大に大きく貢献していきます。

三井化学グループの将来あるべき姿

- ①「成長性」と「永続性」を兼ね備えた事業ポートフォリオの構築
- ②アジアを中心にグローバルに存在感のある化学会社



2011年度中期経営計画の基本戦略

景気変動を受け難い事業の拡大

- M&Aによる機能化学品の早期拡大
- グループの技術開発力結集による海外展開加速



競争優位事業のグローバル拡大

- 有力パートナーとの連携による急拡大するアジア需要の早期獲得



将来のコア事業創出

- R&Dの重点化・効率化
- 新たなビジネスモデルの構築



徹底的なコストダウンと抜本的な再構築

- 石化事業の構造改革

2012年度

2013年度

2014年度

2015年度

4月【日本】高機能不織布生産能力増強(機能フィルム・シート・不織布)

7月【マレーシア】太陽電池封止シート製造設備新設(機能フィルム・シート・不織布)

4月【韓国】PP用触媒製造設備新設(精密化学品)

上半期【ドイツ】Heraeus社歯科材料事業買収(ヘルスケア)

9月【中国】高機能不織布製造設備新設(機能フィルム・シート・不織布)

下半期【タイ】高機能包装フィルムT.U.X®製造設備新設(機能フィルム・シート・不織布)



12月【シンガポール】エボリュ®製造設備新設(メタロセンポリマー)

10月【中国】機能性コンパウンド製造設備新設(PO系コンパウンド)

第1四半期【中国】EPT製造設備新設(エラストマー)

第1四半期【中国】フェノール製造設備新設(フェノール・チェーン)

2月【シンガポール】タフマー生産能力増強(エラストマー)

第3四半期【メキシコ】PPコンパウンド生産能力増強(PO系コンパウンド)

第2、3四半期【北米】PPコンパウンド生産能力増強(PO系コンパウンド)

4月【日本】アセトン法IPA製造設備新設(フェノール・チェーン)

3月【韓国】KOC社買収(メガネレンズモノマー)

10月【タイ】PPコンパウンド生産能力増強(PO系コンパウンド)

第2四半期【メキシコ】PPコンパウンド生産能力増強(PO系コンパウンド)

5月【ブラジル】PPコンパウンド拠点設立(PO系コンパウンド)



10月【日本】田原メガソーラー事業開始

上半期【中国】リチウムイオン電池電解液製造設備新設



4月【日本】PE製造プラント1系列停止

7月【日本】PP製造プラント1系列停止

2014年度末【日本】京葉エチレン(株)からの離脱



Topics M&Aによるヘルスケア分野の拡大

ドイツHeraeus社の歯科材料事業の買収

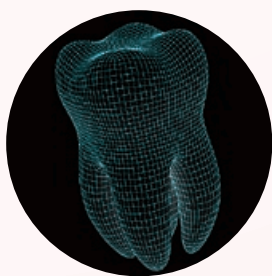
2013年4月、ドイツHeraeus(ヘレウス)社の歯科材料事業(Heraeus Dental)を買収することを決定しました。Heraeus Dentalは、全世界5ヶ国に生産拠点、22ヶ国に営業拠点を有しており、売上高は350百万ユーロ(約400億円)を誇っています。今後、Heraeus Dentalのグローバルな事業基盤をベースにして、安定的な成長が見込まれる海外歯科材料市場への事業展開を加速し、当社のコア事業として成長・拡大させていきます。



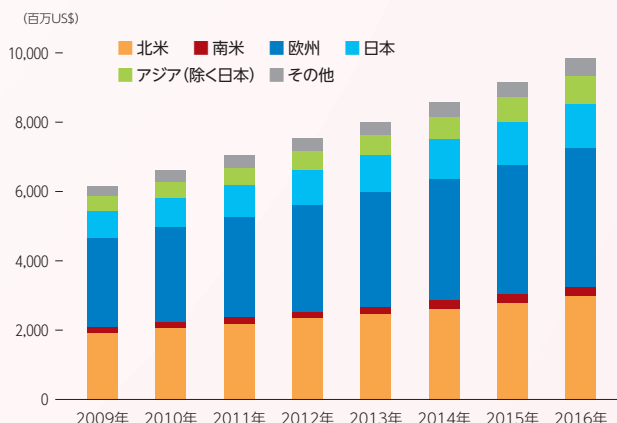
高齢化によって年6~7%の成長を見込む

歯科材料は、金属からプラスチックへの素材代替が進んでおり、貴金属の加工に強みを持つHeraeus社から、ポリマー技術などの化学領域に強みを持つ当社が歯科材料事業を買収することにより、さらなる事業拡大を進めていきます。

また、歯科材料事業は需要が安定しており、今後、世界的な高齢化により、年6~7%程度の高い成長が期待できる分野です。特に、歯の形状の3次元データをもとに義歯を製造するCAD/CAMシステム分野の市場が急速に拡大しています。



地域別歯科材料市場規模推移



グローバルネットワークの活用

当社は、子会社であるサンメディカル株式会社において30年以上にわたり歯科材料事業を手掛けてきており、国内市場を中心に一定の市場地位を築いてきました。今回の買収により、Heraeus Dentalの幅広いグローバルネットワークを活用することで、課題であった海外展開の加速が可能となります。

おわりに

2013年度においては、昨年4月の岩国大竹工場における事故を教訓とした抜本的な安全対策を確実に実行するとともに、事業ポートフォリオの変革と収益悪化大型事業の抜本的な構造改革に全力をあげ、収益回復のスピードアップを図ってまいります。株主の皆様におかれましては、何卒倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。